熊本縣下飽田郡高橋町市街震災被害眞圖

熊本城内號砲臺地盤割裂眞圖

此に掲ぐる兩面の圖畫は明治廿二年七月二十八日夜熊本縣下に起れる大地震の紀念として留むべき爲め同縣飽田郡高橋町（字川端）市街被害の實況及び同地第六師團所轄熊本城内（舊平左衛門櫓床）號砲臺近傍の土地割裂の寫眞に據て圖畫を作り之を歐風寫眞畫樣に模刻したるものなり幾多の寫眞中特に玆に此の兩面を撰みて摸刻したるものは該地被害の箇處中殊に此の兩處を以て最も悲慘の箇處となせばなり

明治廿二年七月廿八日夜に於ける熊本縣下の震災ハ實に近代稀に聞くの大震災なり被害の地一市九郡に亘り裂地八百九十餘箇處人畜の死傷亦少しとせず史家の說に據るに同震災は往古白凰七年十二月及び天平十六年五月、貞觀九年五月、仁和三年七月、寛文二年十一月、享保八年十一月、同十年九月、安永八年九月、寛政四年二月等に於て九州に起れる前後九回の震災と共に永く史上に記して不忘に備ふべきの大震災なりと云ふ

明治廿二年九月一日東京朝日新聞第千四百廿五號附錄